

鹿児島県特産品協会だより

Vol.
70

～令和7年度 通常総会開催～

令和7年度通常総会を会員企業・団体からの出席者102名のもと、6月30日に開催しました。

冒頭、塩田理事長からは「全国での物産観光展や『かごしまの新特産品コンクール』の開催、『かごしま特産品ネット かごいろ』の運営などを通じて、本県特産品の消費喚起に取り組んでまいりました。また、『鹿児島ブランドショップ』は、昨年8月に『よかど鹿児島本店ビル2階』へ移転し、クルーズ船の乗客を乗せたバスが、整備された乗降所を利用することで、ブランドショップへの誘客が図られ、県産品の認知度向上や販路拡大につながっています。今後も『南の宝箱鹿児島』にふさわしい豊かな食や伝統工芸品などの魅力を国内外にしっかりと発信し、本県産業の“稼ぐ力の向上”を図ってまいります。」との挨拶がありました。

議案の審議では「令和6年度事業報告および決算報告」「3名の理事の選任」など、3件の議題が審議され、いずれも承認されました。

事業報告では、本県特産品の「宣伝・紹介」「販路拡大・取引斡旋」「開発・品質向上」「情報収集・提供」の4つの柱に基づき、昨年度より取り組んでいる「よかど鹿児島」のスペースを活用した飲食・伝統的工芸品の体験イベントや、WEBを活用した情報発信、などについて報告を行いました。

また、「令和7年度事業計画」の報告では、「荒茶生産量日本一」「伝統的酒造りのユネスコ無形文化遺産登録」などの話題を活かし、特産品のブランド力強化、販路拡大・PR、品質向上などの取り組みのほか、新規事業として「インバウンド等をターゲットとした伝統的工芸品の新商品や体験メニューの開発支援等」についても説明を行いました。

本年度も、さまざまな事業を通じて、会員の皆様とともに本県特産品のさらなる振興に努めてまいりますので、引き続き、皆様からのご支援・ご協力、そしてご提言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大丸福岡天神店「第4回南の宝箱 鹿児島展」開催！

鹿児島県と当協会では、4月9日(水)～14日(月)の6日間、大丸福岡天神店において「第4回南の宝箱 鹿児島展」を開催し、九州最大の消費地である福岡および周辺地域の消費者に向けて、本県の魅力を広くPRしました。(工芸品7社、食品44社)

今回は、鹿児島県のキャッチコピーである「南の宝箱 鹿児島」をテーマに、定番の人気商品に加え、日本一の生産量や産出額を誇る食材を使用した人気グルメや季節限定商品、「出来立て名物特集!」「ニュー&レトロスイーツ特集!」「福岡の名店とのコラボ」など、この催しでしか味わえないオリジナルメニューも多数提供しました。

初日には、マスコミ向けのオープニングセレモニーを開催し、鹿児島からは大塚副知事、津田事務局長、出展店舗関係者、PRキャラクター「ぐりぶー」、(株)博多大丸からは村本社長が出席し、今回の見どころをアピールしました。

会期中は、人気情報番組による会場からのライブ中継や、夕方の報道番組での紹介、SNSの活用に加え、おすすめ特産品が当たる「ご当地ガチャ」などのイベントも開催し、週末には多くの来場者で賑わいました。

販売面では、かるかんやさつま揚げ、黒豚の総菜、ラーメン、白熊といった定番人気商品に加え、「荒茶生産量日本一」となったお茶や、昨年12月に「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録された本格焼酎などにも高い関心が寄せられました。

また、本催しでは催事場で初めて工芸品を展開し、宝飾品や大島紬などの高額品に加え、竹製品や包丁といった調理用品をご購入されるお客様の姿も多く見られました。

百貨店の担当者からは、「鹿児島展は今年で4回目となり、売上も年々伸びている(前年比106%)。今後は、鹿児島の魅力をより深掘りしたMD展開(出展者や商品)や企画を考えていきたい」との前向きなご意見をいただくとともに、若年層向けやSNS映えするスイーツ、鹿児島で話題の商品、特別感のある限定品の提案を求める声もありました。

引き続き、大丸福岡天神店様との連携を強化し、物産展のさらなる盛況と鹿児島ファンの拡大、九州・山口圏内における本県特産品の販路拡大に積極的に取り組んでまいります。



第4回南の宝箱 鹿児島展

よかど鹿児島を活用した特産品PRとアンテナショップの機能強化

昨年7月、鹿児島県産業会館からよかど鹿児島本店ビルへ移転した当協会および鹿児島ブランドショップでは、現在、同ビルを活用した本県特産品のPRに力を入れています。

1階の「賑わいスペース」では、これまでに、当協会とよろず支援拠点が連携して開催した「カゴよろマルシェ」や、各市町村による特産品販売、観光PRなどの取り組みを行ってきました。

今年2月には、県内37の蔵元の銘柄と県内7店舗による揚げ立てさつま揚げを一堂に楽しめるイベント「よかど！焼酎STORY」や、4月から6月には、クルーズ船の寄港に合わせた「かごしまGoodフェア」を開催し、県内外の方々に向け、新たな形で本県特産品を紹介するイベントを展開しました。

特に、クルーズ船寄港時には、鹿児島県が最終寄港地であったことに加え、よかど鹿児島に船客専用の循環バス乗降所が設置されたこともあり、鹿児島ブランドショップは、お土産を買い求める多くの県外客でにぎわいました。

今後も体験を交えたイベントや新たな企画に取り組むことで、本県特産品のさらなる認知度向上を図ってまいります。



～かごしま遊楽館 鹿児島ブランドショップ東京店情報～ 「かごしま遊楽館誕生30周年記念誕生祭」 「かごしまね誕生祭2025」を開催

かごしま遊楽館では、「かごしま遊楽館30周年記念誕生祭」にあわせ、島根県のアンテナショップ「日比谷しまね館」との共催によるイベント「かごしまね誕生祭2025」（5月30日～6月1日）を開催しました。

この取り組みは、令和2年5月29日に「日比谷しまね館」が現在の場所に移転したことをきっかけに、開館日や立地が近い「かごしま遊楽館」との共通点を活かし、両県の特産品や観光PRを通じて、アンテナショップの機能強化や認知度向上を図る共同企画として継続的に実施しています。

今年のイベントでは、両県アンテナショップにおいて、往復航空券や特産品が当たる豪華抽選会をはじめ、「ご当地パンなどの特別限定販売」や、鹿児島県産和牛日本一の「牛串」の販売、ユネスコ無形文化遺産登録された「伝統的酒造り」にちなんだ焼酎のふるまい、荒茶生産量日本一の本県のお茶と郷土菓子が楽しめる「かごしま百円茶屋」など、多彩な催しを通じて本県の特産品と観光の魅力を発信しました。

来館者からは「鹿児島が食の宝庫だと初めて知った」「今後の旅行先として検討したい」といった声も寄せられ、会場は大いに賑わいました。

館内各フロアにおいても、イベントを盛り上げる特別企画を実施しました。

○1階「さつまいもの館」：限定お楽しみ袋の販売

○2階「遊食豚彩いちにいさん」：誕生祭限定ランチ、焼酎飲み比べセットの販売

○3階「ブランドショップ」：荒木陶窯による「荒木陶窯展」および「手びねりオリジナル黒薩摩カップ製作体験」

特に黒薩摩の製作体験では、「作品を作る難しさを実感した」「都内で自分だけの器を作る機会は貴重」といった感想が寄せられ、中には「2月にも体験して楽しかったので、今回も参加した」というリピーターの方もおり、参加者からは大変好評でした。

今後も東京店では、こうした参加型イベント等を通じて、皆様と共に本県特産品の魅力発信に努めてまいります。首都圏での特産品販売・PRをご検討の際は、ぜひお気軽にご相談ください。



手びねりオリジナルの
黒薩摩カップ製作体験

特産振興支援員奮闘記

竹細工のおはなし

特産振興支援員 工芸品担当 脇田 守

鹿児島県は、竹林面積日本一を誇り、その面積は約1万8,000ヘクタールに及びます。

昔から農具や日用品など、生活に必要な道具は竹を使って各家庭で作る習慣があり、様々な暮らしのシーンを支えてきました。中でも、鹿児島県は孟宗竹の産地として知られており、建築材や工芸品など、様々な用途で活用されています。

竹細工には、真竹（マダケ）や孟宗竹が多く使われており、3～4歳の竹を伐採し、油抜きをして天日干乾燥することで色が黄色くなります。この竹を切断、割って、剥ぎ、竹ひごにして編んだものが竹細工です。

5月15日、さつま町の宮之城伝統工芸センターを訪ねました。当日は、本年度の竹細工教室の開講式で、教室の初日でした。教室では、申し合わせ事項として、「1つ、人並みな作品ができなくても、途中であきらめず最後まで頑張ります。2つ、習得した技術は自分だけのものとせず、他の人々にも広め、次の世代へ引継ぐことにも努めます。」と、謳ってあります。さつま町の竹への深い想いが記されていると思いました。

次に、5月25日、鹿児島市竹工芸振興組合主催の「第18回ふれあい竹のいち」に行ってきました。会場は、ざるや花かご、弁当箱など精巧に作り上げられた工芸品が1万7千点以上揃えてあり、伝統的な生活用品や現代的な作品など素晴らしい作品が会場いっぱいに並んでいました。鹿児島市の「竹工芸技能者育成講座」の受講生募集は、今年定員30名に対して大幅に上回る応募があり、抽選により2、3年待ちの方がおられるとのことを組合の事務局で聞いて大変驚きました。

両自治体におきましては、この竹製品への関心の高さを自信に竹細工の伝統技術の継承、発展にご尽力いただきたいと思います。



宮之城伝統工芸センター
竹細工教室の様子



鹿児島市竹工芸振興組合
ふれあい竹のいちの様子

協会インフォメーション

1. ㈱山形屋「第16回 南の宝箱 鹿児島 ふるさと物産展」開催のお知らせ

鹿児島県と当協会では、県内における人・モノ・情報の交流促進ならびに県産品振興を目的として、標記催しを開催します。

今回は、鹿児島県のPRキャッチコピーである「南の宝箱 鹿児島」をテーマに、県内43市町村の魅力ある特産品や素材を掘り起こし、「ふるさと鹿児島」の魅力を再発見・再発掘していただけるような内容を目指しています。会場では、「山形屋オリジナル限定品」や「数量・会場限定商品」などの特別企画品の販売を通じて、県民の皆様に県産品の多様な魅力を発信してまいります。

【会期】令和7年8月19日(火)～8月25日(月) 7日間

【会場】㈱山形屋 6階大催場 ほか

2. ㈱東武百貨店池袋店「大九州展」開催のお知らせ

当協会では、首都圏における本県産品のイメージアップ並びに販路拡大を図るため、「大九州展」に出展いたします。

今回、暑さ(残暑)が厳しいこの時期に「暑さ(残暑)を乗り越える『スタミナ』」「からだところを癒す『クール』」を二大テーマとして開催され、九州各県や奄美群島等の旬の畜産・農水産物や特色ある県産品など、この会期中にしか味わえない「こだわり」ある逸品を幅広く宣伝・紹介し本県産品の更なる販路拡大を図って参ります。

【会期】令和7年7月31日(木)～8月5日(火) 6日間

【会場】㈱東武百貨店池袋店 8階催事場

3. 「かごしま伝統の技」伝承事業「かごしまの手仕事学校」開催のお知らせ

当協会では、小学生とその保護者等を対象に、県内工芸品の製造体験や職人との交流を通じて、伝統工芸に対する理解と認識を深めるとともに、将来的な需要の創出を図るため、マルヤガーデンズにて「かごしまの手仕事学校」を開催いたします。

今回は、国指定の伝統的工芸品である「本場大島紬」「川辺仏壇」「薩摩焼」の製作体験をはじめ、「薩摩切子」のアクセサリ製作や「大漁旗」の技法を使用したトートバッグの顔料色付体験も実施いたします。7月5日(土)から体験者を募集いたしますので、下記URLよりお申込みください。

【会期】 令和7年8月8日(金)～8月10日(日) 10:30～14:45
【会場】 マルヤガーデンズ 4階ユナイトメントガーデン ほか
【URL】 <https://www.maruya-gardens.com/kg2025/>



4. 「南の宝箱鹿児島輸出商談会2025」開催のお知らせ

今回、豊富で良質な本県産品を海外への販路開拓と更なる認知度向上を図るため、国内外のバイヤー(約30社を招聘予定)と商談する「南の宝箱鹿児島輸出商談会2025」(10月14日(火)～15日(水)2日間)を開催いたします。

当協会では、これからも県や民間企業と連携を図りながら、海外への本県特産品の販路拡大及びPRを支援して参りますので、輸出等興味のある方は、是非ご相談ください。

【会期】 令和7年10月14日(火) 午前9時～午後6時 ※10月15日(水)は産地視察
【会場】 鹿児島サンロイヤルホテル2階(太陽の間、開間の間、高隈の間)
【URL】 <https://shinsei.pref.kagoshima.jp/P8ZzeRr2>

5. 「2025かごしまの新特産品コンクール」開催のお知らせ

かごしまの新特産品コンクール実行委員会では、多様化する消費者ニーズに対応した売れる商品づくりを促進するため、「2025かごしまの新特産品コンクール」〔主催：かごしまの新特産品コンクール実行委員会(構成員：鹿児島県・鹿児島市・当協会)〕を開催いたします。

近日中に鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県特産品協会のホームページにて情報公開、募集開始しますので、皆様のご出品をお待ちしております。

6. 特産振興支援員をご活用ください

当協会では、企業の新商品開発や既存商品のブラッシュアップなどの様々なお悩みを解決するため、食品担当・工芸品担当の特産振興支援員が常駐しております。

お電話でのご相談はもちろん、出張相談、セミナー講師、コンクール等の審査員としても派遣(無料)を行っておりますのでブランド支援センターへお気軽にお問合せください。

今後もお電話・メール等で会員皆様のお悩み・ご相談等受付けておりますので、いつでもご連絡ください。

<お問合せ先>

(公社)鹿児島県特産品協会 ブランド支援センター TEL: 099-233-9177
 (食品担当: 海老原涼子、工芸品担当: 脇田守)